

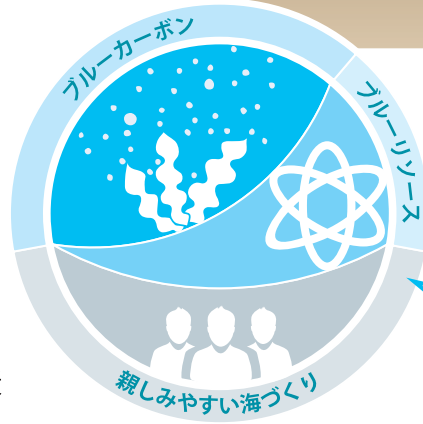
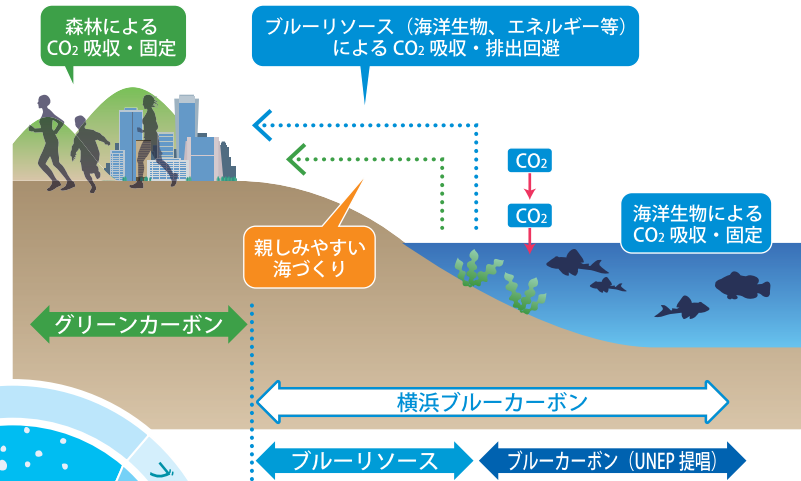
横浜ブルーカーボン

ブルーカーボンとは？

海洋に生息する海藻などの生き物によって吸収・捕捉される炭素のことです。森の緑と同じように、わかめなどの海の生き物も CO₂ の吸収・削減に貢献しています。ブルーカーボンは、2009年の国連環境計画(UNEP)の報告書で命名されました。



▲海の公園のアマモ



『横浜ブルーカーボン』では、「ブルーカーボン」に限らず、臨海部におけるエネルギー等の利活用に着目した「ブルーリソース」や、人と海とのつながりを築く「親しみやすい海づくり」を進めています。

ブルーリソース

海洋エネルギーの活用や臨海部の低炭素化など、海洋及び臨海部におけるエネルギー・資源の有効活用のことです。



▲海水ヒートポンプ (株式会社横浜八景島)

親しみやすい海づくり

市内企業・団体や大学等と連携しながら、わかめの植付け・収穫イベントや東京湾の生きもの観察ツアー、横浜産わかめ試食会などの環境啓発活動を行っています。



▲東京湾の生きもの観察ツアー

独自のカーボン・オフセットの取組

市内企業・団体の「わかめ地産地消」、「海水ヒートポンプの導入」、「LNG燃料タグボートの導入」等によるCO₂削減効果を活用し、世界トリアスロンシリーズ横浜大会の開催などで排出されたCO₂のオフセット(埋め合わせ)を行っています。



横浜産わかめの試食会



海藻おしぼ教室



わかめ収穫イベント



ブルーカーボン・オフセットで 横浜の海をもっと魅力的に

© Satoshi TAKASAKI/JTU

ブルーカーボン オフセット実施イベント・企業

ブルーカーボン クレジット創出企業



トライアスロン大会等のスポーツイベントの開催や事業活動に伴い排出されたCO₂のオフセットを実施

(カーボン・オフセットフォーラム Web ページ掲載図を基に作成)



(平成30年度実績)

●わかめの地産地消

わかめを市外から搬入せずに地産地消を行うことによるCO₂削減量

●海水ヒートポンプの導入

年間を通じて温度が安定している海水エネルギーの活用によるCO₂の削減量

●LNG燃料タグボートの導入

重油よりも環境にやさしいLNG(液化天然ガス)の活用によるCO₂の削減量

●ハイブリッドタグボートの導入

従来の重油燃料により航行するタグボートから、電気と重油燃料により航行するタグボートへの更新によるCO₂の削減量



横浜市漁業協同組合



NPO 法人海辺つくり研究会



株式会社横浜八景島



株式会社ウィングマリタイムサービス

(平成30年度実績)

●横浜ブルーカーボン・オフセット制度

カーボン・オフセットとは、自らのCO₂等の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を、他の場所での排出削減・吸収活動に投資することによって相殺することをいいます。本制度は、市内の「ブルーカーボン」や「ブルーリソース」によるCO₂吸収量の増大及び排出量の削減効果を、取引可能なクレジットとして独自の的方法論によって認証し、そのクレジットの売買を行うことで、海の環境活動の更なる推進を目指す、横浜の海を舞台にしたカーボン・オフセット制度です。

